

## 横浜市山下ふ頭開発基本計画検討委員会 委員名簿

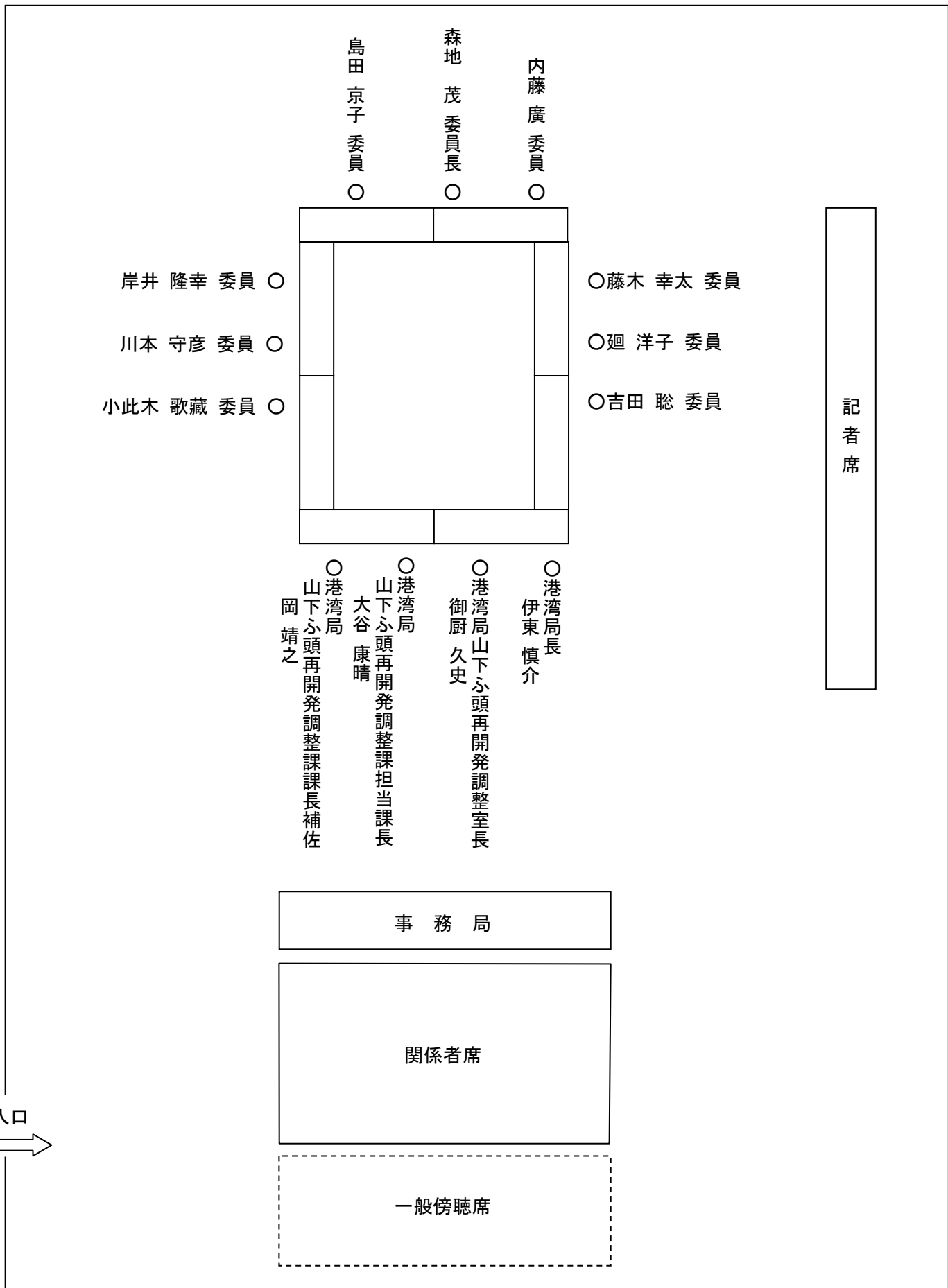
◎委員長、○委員長代理

(五十音順・敬称略)

氏名	現職等
おこのぎ うたぞう 小此木 歌藏	神奈川県倉庫協会会長
かわもと もりひこ 川本 守彦	横浜商工会議所副会長
○きしい たかゆき 岸井 隆幸	日本大学理工学部教授
しまだ きょうこ 島田 京子	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団代表理事・専務理事
ないとう ひろし 内藤 廣	建築家・東京大学名誉教授
ふじき こうた 藤木 幸太	横浜港運協会副会長
むろた まさこ 室田 昌子	東京都市大学環境学部教授
めぐり ようこ 廻 洋子	淑徳大学経営学部教授
◎もりち しげる 森地 茂	政策研究大学院大学教授
よしだ さとし 吉田 聡	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授

【第3回横浜市山下ふ頭開発基本計画検討委員会 座席表】

会場：産業貿易センタービル 8階横浜商工会議所大会議室



横浜市山下ふ頭開発基本計画検討委員会資料  
第 3 回

---

平成 27 年 3 月 19 日



(全体構成)

- 1 山下ふ頭再開発の方向性
  - (1) はじめに
  - (2) 都心臨海部の目指すべき姿 (全体の施策体系)
  - (3) 横浜港の質的転換
  - (4) 山下ふ頭を取り巻く環境
  - (5) 山下ふ頭の現状と特徴
  - (6) 山下ふ頭の課題分析
  - (7) 山下ふ頭再開発の目指すべき方向性

第1回

- 2 山下ふ頭開発基本計画
  - (1) 山下ふ頭再開発の目指すべき方向性
  - (2) 山下ふ頭再開発の基本計画方針
  - (3) 国内外から多くの人を呼び込む賑わい創出
  - (4) 地区内外の移動を支える交通ネットワーク
  - (5) 快適で、回遊性のある歩行者動線
  - (6) 水と緑を身近に感じる空間づくり
  - (7) 港町の魅力を高める景観形成
  - (8) 環境に配慮したまちづくり
  - (9) 高い防災・安全力をもつまちづくり
  - (10) まちの質を高めるエリアマネジメント
  - (11) わかりやすく利便性の高いまちづくり (追加)

第2回

今回 (第3回)

- 3 実現に向けた方策の検討
  - (1) 事業手法
  - (2) 事業の進め方
  - (3) 推進体制づくり

今回 (第3回)

↓市民意見募集

基本計画とりまとめ (答申)

第4回

第3回資料構成

- 1 第2回検討委員会のまとめ . . . . . P 2
- 2 山下ふ頭開発基本計画
  - (3) 国内外から多くの人を呼び込む賑わい創出
    - ・ターゲットの考え方 . . . . . P 4
    - ・滞在イメージ . . . . . P 5
  - (7) 港町の魅力を高める景観形成
    - ・景観の考え方 . . . . . P 6
  - (11) わかりやすく利便性の高いまちづくり
    - ・バリアフリー、情報提供・発信の考え方 . . . . . P 6
- 3 実現に向けた方策
  - (1) 事業手法 . . . . . P 7
  - (2) 事業の進め方 . . . . . P 7
  - (3) 推進体制づくり . . . . . P 7

## 1 第2回検討委員会のまとめ（1）

[これまでの主なご意見]

以下の表のとおり、3つのカテゴリーに整理するとともに、◇・★・◎の3つに分類しています。

◇・・・今回のP3「第2回検討委員会のまとめ」に反映しました

★・・・今回ご議論いただくために資料を用意しました

◎・・・今後、ご意見の趣旨を踏まえ、実現に向けて検討してまいります

### 「観光・コンベンションを中心とした魅力的な賑わいの創出」 に関するご意見

- ◇文化・芸術、高級ホテル、フィッシャーマンズウォークのような、港にある新しい食文化施設のある国際的な滞在型臨海リゾート都市として検討しても良い。
- ◇フルシーズンで1週間くらい滞在するような施設とはどういうものか、もう少し踏み込んで考える必要がある。
- ★集客規模やターゲットについて分析し考え方を整理する必要がある。
- ★街の活動イメージとして、昼夜の顔を考える必要がある。
- ★賑わいづくりには、民間を主体としたマーケティング計画が必要である。
- ◎具体的な機能は決めずに、柔軟性・融通性を持たせたゾーニングの運用を考える方が良い。
- ◎山下ふ頭再開発はインナーハーバー全体開発のきっかけなので、ここだけで全て完結する必要はないと思う。
- ◎地区外から雨にぬれずにアクセスできる歩行者空間の検討が必要。
- ◎山下ふ頭の特徴を活かした、大規模施設ゾーンや3つのピアの活用イメージを検討する必要がある。
- ◎歩いて楽しい歩行者空間となるよう工夫していく必要がある。

### 「親水性豊かなウォーターフロントの創出」 に関するご意見

- ★景観は非常に重要な要素であるとともに、横浜全体の牽引力とする上でプレーキとならないようにしなければならない。
- ★夜の顔として、臨海部の夜景（照明）について検討する必要がある。
- ◎景観的に問題のないエリアでは、あまりメンテナンスのかからないフレキシブルな施設としてもよい。
- ◎山下公園はアクセスルートとして重要な位置にあり、山下公園を計画地区の緑と一体的に、より良い空間とすることが必要である。

### 「環境に配慮したスマートエリアの創出」 に関するご意見

- ◇緑など自然を生かした快適で過ごしやすい空間づくりが重要である。
- ★長丁場のプロジェクトとなるので、全体の事業計画や景観計画について、マネジメントする仕組み・体制が必要。
- ◎地域全体で一体性を演出するためのルール作り（エリアマネジメント）が必要。
- ◎エリア全体でのトイレの配置等を検討し、誰もがゆっくり散策できるような街を考える必要がある。
- ◎安全に滞在できるよう、地区の警備体制についても、十分考えておく必要がある。

## 『ハーバーリゾートの形成』

世界が注目し、横浜が目的地となる都心臨海部にふさわしい新たな魅力創出

### 観光・MICEを中心とした魅力的な賑わいの創出

#### ■国内外から多くの人を呼び込む賑わい創出

- 新たな横浜のシンボルとなる大規模集客施設
- 文化・芸術、エンターテインメント、宿泊により、人々が楽しみ滞在するリゾート空間



#### ■地区内外の移動を支える交通ネットワーク

- 広域的な交通ネットワークと周辺地区との回遊性の向上と地区内の移動支援
- 観光拠点となる交通ターミナルの形成



#### ■快適で、回遊性のある歩行者動線

- 安全・快適な歩行者動線として地区内は歩車を立体で分離
- 地区内の軸となる歩行者動線と歩行者ネットワーク



### 親水性豊かなウォーターフロントの創出

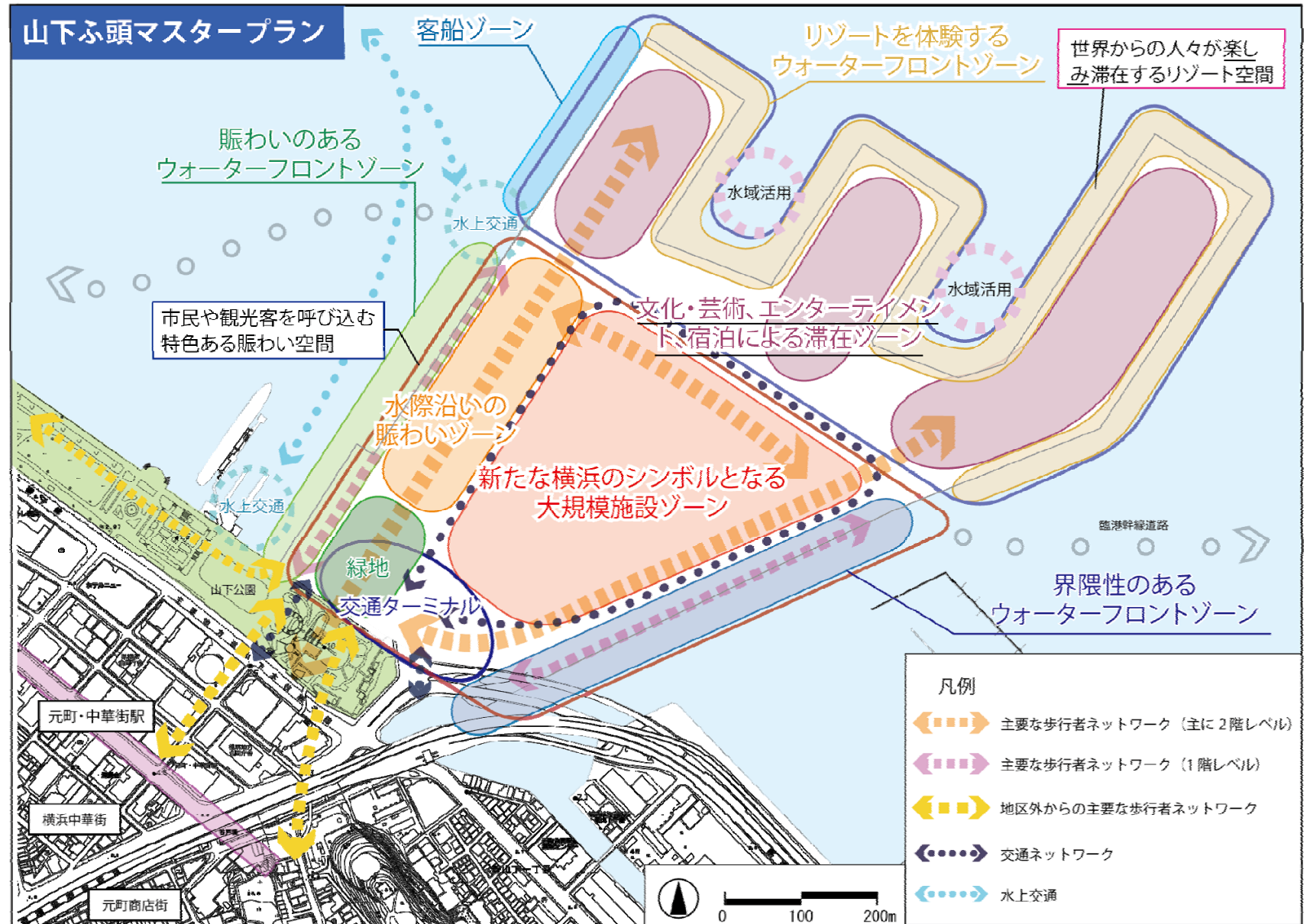
#### ■水と緑を身近に感じる空間づくり

- 緑豊かなオープンスペースと水際のプロムナード空間の形成
- 新たな水上アクセスルートと水域活用



#### ■港町の魅力を高める景観形成

- 横浜港が持つ「みなとまち」の雰囲気を受け継ぎつつ、「ハーバーリゾート」としての新たな景観の形成



※このマスタープランは今後まちづくりを進めていく上での羅針盤となるものです。

横浜市建築局都市計画基本図データにより作成

### 環境に配慮したスマートエリアの創出

#### ■環境に配慮したまちづくり

- 面的なエネルギーシステムの導入と建築設備における高効率化
- 良好な屋外環境を取り入れた施設づくり
- 新たな地区内交通システム



#### ■高い防災・安全力をもつまちづくり

- 災害時の来街者のための安全・安心の確保
- 災害時の自立した都市機能の実現

#### ■わかりやすく利便性の高いまちづくり

- まちの質を高めるエリアマネジメント
- 多様な情報提供と積極的な情報発信



## 2 山下ふ頭開発基本計画

### (3) 国内外から多くの人を呼び込む賑わい創出（まちづくりのターゲット）

#### 1. 「ハーバーリゾート」の目指すもの

##### ■ 山下ふ頭再開発のねらい

###### 観光・MICE 振興

○新たな魅力や都市ブランドの創出による観光・MICE 振興

###### 地域振興

○新たな賑わい拠点と周辺地区との回遊性向上による地域振興

##### ■ 「ハーバーリゾート」のコンセプト

豊かな水域に囲まれたウォーターフロントの立地特性を生かし、これまでになかった横浜らしい非日常空間を形成し、新たな余暇の過ごし方、ライフスタイルを提供。

#### 2. ターゲットの考え方（外国人）

##### ア 都道府県別の外国人延べ宿泊客数と観光目的率

- ・全国約 3,100 万人のうち、神奈川は約 100 万人（約 3%）に過ぎず、東京・大阪・北海道・京都・千葉・沖縄・愛知より少ない。横浜市では約 44 万人となっている。
- ・国別の宿泊客数は、全国では台湾が一番多く、以下、中国、韓国、とアジア地域が多い。
- ・観光目的の割合は、東京や神奈川では少なく、北海道や京都、沖縄で高い。

都道府県	外国人延べ宿泊客数	内訳										観光目的率
		国別シェアのトップ5										
東京都	9,448,940	米国	13%	台湾	12%	中国	12%	韓国	9%	香港	7%	47.9%
大阪府	4,076,500	台湾	19%	韓国	18%	中国	17%	香港	11%	米国	5%	64.7%
北海道	2,821,940	台湾	36%	香港	14%	中国	12%	韓国	10%	タイ	7%	83.7%
京都府	2,363,720	台湾	18%	米国	14%	中国	9%	豪州	7%	香港	4%	71.2%
千葉県	2,036,170	中国	19%	台湾	15%	米国	12%	タイ	4%	香港	4%	60.2%
沖縄県	1,426,730	台湾	32%	香港	20%	韓国	15%	中国	10%	米国	9%	72.9%
愛知県	1,116,730	中国	26%	台湾	14%	米国	13%	タイ	8%	韓国	7%	45.3%
神奈川県	1,015,740	米国	19%	中国	18%	台湾	10%	韓国	7%	英国	5%	46.6%
...												
全国	31,242,220	台湾	20%	中国	13%	韓国	12%	米国	9%	香港	8%	52.6%

出典 1

##### イ 観光目的の外国人延べ宿泊客数（H25）

- ・東京や神奈川では、訪れる観光目的の外国人は、台湾、香港、中国など、アジア地域が多い。
- ・横浜においても同じ傾向にあると推測される。

東京都			神奈川県		
2013 (H25)	推計の結果		2013 (H25)	推計の結果	
945 万人	観光目的率*	観光目的客数*	102 万人	観光目的率*	観光目的客数*
【内訳】			【内訳】		
米国 1,188,080	×35%	=416,000 ④	米国 188,510	×28%	=53,000 ③
台湾 1,174,670	×74%	=869,000 ①	中国 180,880	×54%	=98,000 ①
中国 1,143,850	×44%	=503,000 ③	台湾 98,600	×76%	=75,000 ②
韓国 836,760	×32%	=268,000	韓国 68,990	×33%	=23,000
香港 628,710	×82%	=516,000 ②	英国 47,480	×28%	=13,000
タイ 441,560	×63%	=278,000 ⑤	タイ 39,150	×62%	=24,000 ⑤
豪州 355,710	×67%	=238,000	香港 37,960	×80%	=30,000 ④
...			...		

出典 2

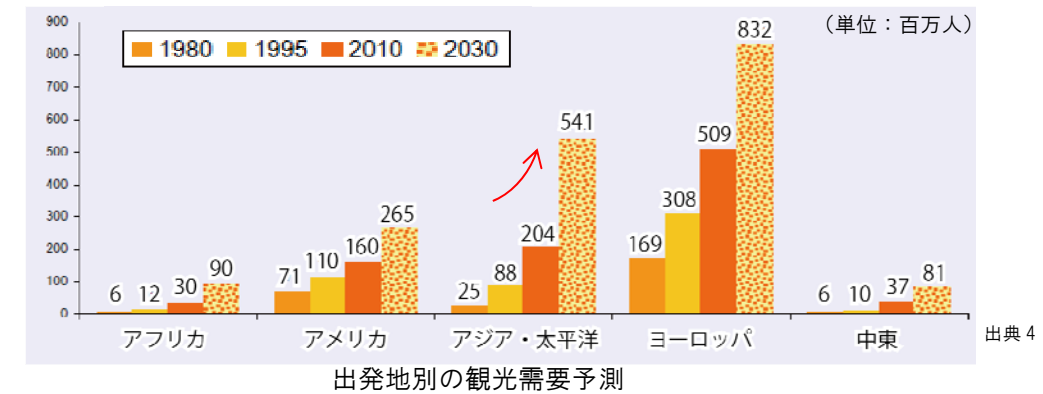
\*出典 3

出典 2

\*出典 3

##### ウ 今後の世界の観光発生需要

- ・2010 年(H22)からの 2030 年(H42)にかけての 20 年間で、アジアや太平洋地域からの海外旅行客が大幅に伸びると予測されている。



出典 4

⇒今後も大幅な増加が見込まれる、首都圏を訪れるアジア地域からの観光客を主なターゲットとする。

#### 3. ターゲットの考え方（日本人）

##### ア 市内観光客に関するデータ（H25）

- ・首都圏からの来街者が多く、滞在時間の拡大、立寄箇所数の増が課題。

###### ■ 居住地別

神奈川県	42.6%
東京都	18.0%
埼玉県	7.9%
千葉県	6.3%
1都3県計	74.8%
その他	25.2%
全体	100%

###### ■ 日帰り・宿泊別

日帰り	78.5%
市内宿泊	14.5%
市外宿泊	7.0%
全体	100%

###### ■ 日帰り客の平均立寄箇所数と滞在時間

	H24	H25
平均滞在時間(h)	5.8	5.1
平均立寄箇所数(箇所)	1.9	1.8

###### ■ 参考：日帰り客の集客実人員

	H24	H25
2,071 万人		2,663 万人

出典 5

##### イ 市内延べ宿泊客数（H25）

- ・外国人に比べ、日本人観光客が圧倒的に多い。

平成25年横浜市延べ宿泊客数	
横浜市における延べ宿泊人数	4,611,924 人
横浜市における外国人延べ宿泊人数	441,964 人

出典 2

⇒立ち寄り箇所数を増やし、日帰り客の滞在時間を拡大するとともに、宿泊客数を伸ばすために、山下ふ頭での魅力ある施設、特徴あるイベント、周辺地区との回遊性の向上などが必要である。



## 2 山下ふ頭開発基本計画

### (3) 国内外から多くの人を呼び込む賑わい創出（山下ふ頭の滞在イメージ）

#### 滞在イメージ1

##### 海外のビジネスパーソンが仕事とプライベートを優雅に過ごす

東京での国際会議に参加したが、翌日は、以前、雑誌で紹介され、気になっていた横浜の先進的な街づくりの取組や都市デザインの視察プログラムが組み立てられており、会議終了後、山下ふ頭へ向かう。東京都心からバスで30分程度の近さだ。



山下ふ頭は、アフターコンベンションが充実しており、大人数でのレセプションや横浜港のナイトクルーズ、ホールでは、ボクシングタイトルマッチの観戦、さらにはプロムナードのジョギング・ウォーキング等、人それぞれの楽しみ方ができる。



夜は、ホテルに滞在し、翌日の視察を終えた後、帰りも、わずか15分で羽田空港に到着した。



#### 滞在イメージ2

##### 国内の遠方客が思い出に残る1日を過ごす

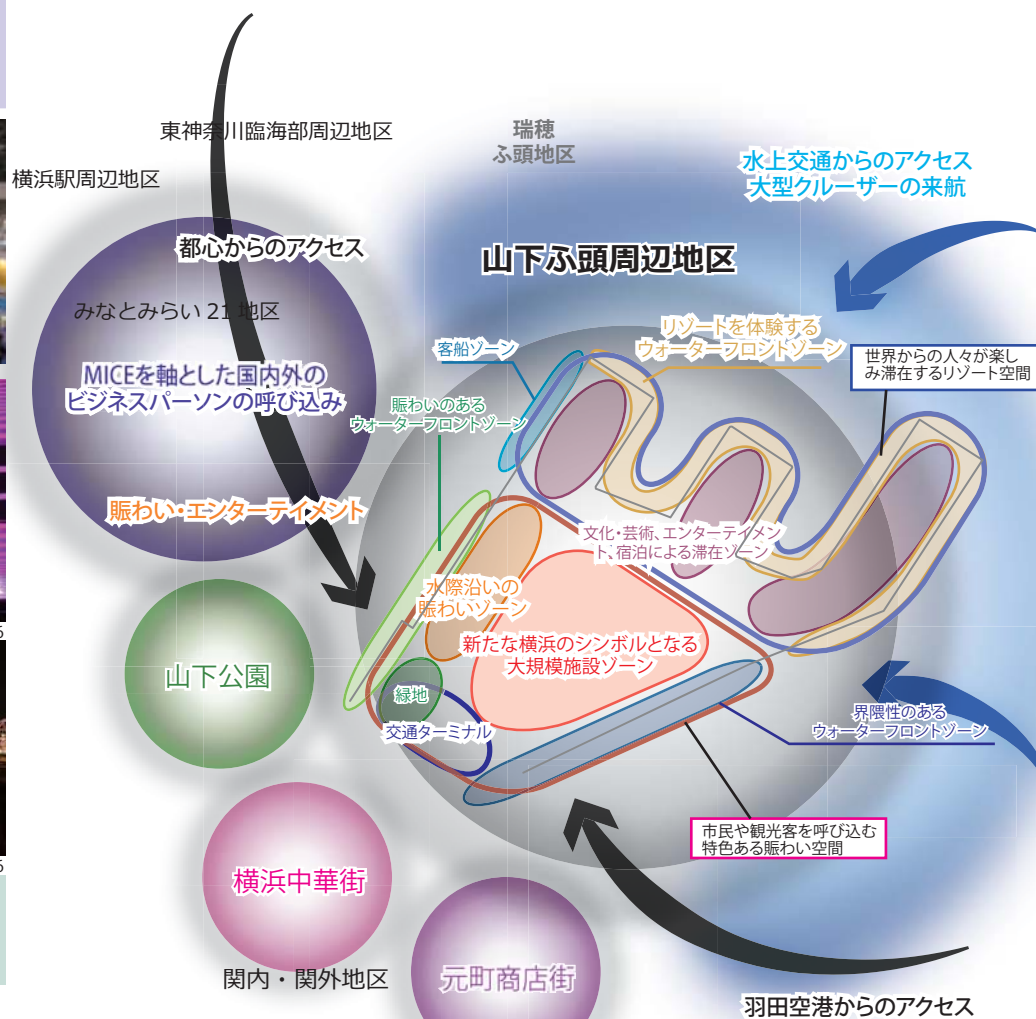
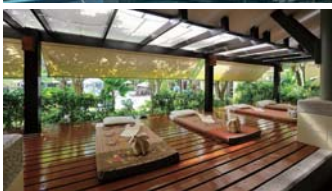
高速バスで地区内の交通ターミナルに到着。ホテルのチェックインまで時間があるので、荷物を預け、山手の洋館巡りをし、中華街でランチをした後、元町商店街でのショッピングなど、地区の周辺を散策。



水際沿いは山下公園から連続するプロムナードとなっており、横浜港を眺めながらホテルまで歩く。そこでは、アートを楽しんだりマルシェで買い物をする等、楽しい時間を過ごすことができる。



海べりのホテルからは、海外の大型クルーザーや客船、ベイブリッジなどを眺め楽しんだ。また、スパやプライベートビーチで、非日常的な時間を過ごした。



#### 滞在イメージ3

##### 近郊からの観光客がデイトリップを横浜で過ごす

近郊から電車で、みなとみらい線の元町・中華街駅に到着。循環バスやベイバイクなど移動手段が充実しており、地区内にも簡単にアクセスできる。



地区内では、大規模施設や水域において、多くのイベントが開催中で、その一つに参加。サイン計画やwifi環境も整備され、迷う心配もない。周辺には、快適で緑豊かな空間が広がり、賑わいが溢れている。



イベントには大勢の参加者があったが、駅へと繋がる歩行者デッキや、水上バスや循環バス等多様な交通機関があり、スムーズに帰宅することができる。



#### 滞在イメージ4

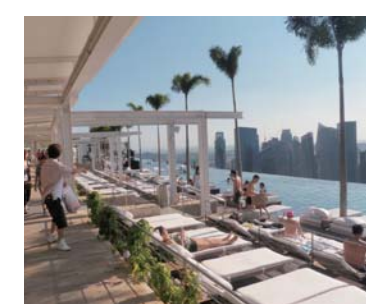
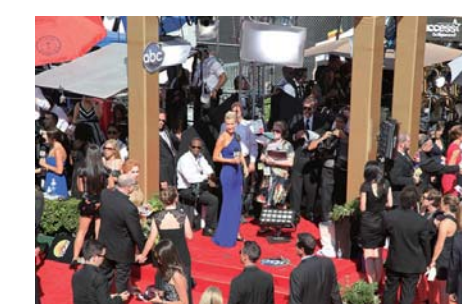
##### 海外の旅行客が横浜ならではの文化や食に触れる

朝日を浴びながら、クルーズ客船は、ベイブリッジをくぐり横浜港に入港。新たな横浜のランドマークとなった山下ふ頭の特徴的な空間がお出迎えする。



客船の到着ロビーと滞在型施設は一体となっており、直ぐにホテルにチェックイン。昼食は、和食のほか、横浜の名物料理が選択でき、日本流のおもてなしに感激。

ある日は、開催中の文化イベントやコンサートで世界的に有名なロングラン公演を見て、夜はスパークリングトワイライトや花火など、昼夜を問わず堪能。コンサートの団員たちも、今夜は、横浜に泊まるそうだ。



最終日、オプションツアーで、交通ターミナルからバスで、箱根、富士山など、近隣への観光地へと向かった後、羽田空港から帰国。

## 2 山下ふ頭開発基本計画

### (7) 港町の魅力を高める景観形成

#### ■考え方

- (背景)・景観は都市の価値を高める重要な要素であり、横浜においては、開港以来の良好な都市景観を築きあげてきた。山下ふ頭再開発にあたって十分な配慮が必要。
  - ・一方、景観を重視しすぎるあまり、開発の過剰な制約とならないような配慮も必要。
- 横浜港が持つ「みなとまち」の雰囲気や歴史を継承しつつ、憩いと安らぎある「ハーバーリゾート」としての新たな景観を作り出すことをめざし、まちづくりを進めるうえでのデザインコンセプトが必要となるが、その視点を示す。

#### 【コンセプト(案)】

##### ○みなとの雰囲気

例) 開港の地として、異国情緒ある雰囲気や歴史の継承

##### ○周囲から見た山下ふ頭の景観

- 例)
- ・客船やベイブリッジなど、海側から見える山下ふ頭
  - ・みなとみらい・大さん橋・山下公園など、陸側から見える山下ふ頭
  - ・既存の景観と一体的な新たな眺望・スカイライン

##### ○山下ふ頭から見た景観

例) 地区内から、海や船を身近に感じる空間構成

##### ○地区の顔(ファサード)づくり

例) 「ハーバーリゾート」として、新たなランドマークとなる施設



##### ○季節感

例) 植物、イベント、イルミネーション等、四季を感じられるオールシーズン楽しめるまちづくり

##### ○昼と夜の顔づくり

例) ライトアップや水辺に浮かぶ夜景など、象徴的なシーン



出典 7



出典 6



### (11) わかりやすく利便性の高いまちづくり(追加する視点)

#### ■考え方

- あらゆる来街者が、安全・安心に過ごすことができるよう、バリアフリーに配慮したまちづくりを行う。
- 地区全体で多言語対応のサインやデジタルサイネージ、Wi-Fi やスマートフォンアプリなどの多様な媒体を通じ、あらゆる来街者に対して、適切なインフォメーション・情報提供を行う。
- ハーバーリゾートの山下ふ頭の素晴らしさを世界に向け積極的に情報発信する。

#### 【横浜市における取組】

##### ○デジタルサイネージ等による情報提供

- ・観光案内所にデジタルサイネージを設置し、横浜での観光情報などを放映している。



##### ○Wi-Fi 環境整備

- ・横浜市では、訪日外国人の利便性の向上と、市内観光情報の発信機能強化に向け、民間事業者との連携により無料 Wi-Fi 環境の整備を進めている。



出典 8

##### ○海外誘客事業

- ・民間事業者と海外誘客に取り組み、民間事業者のサイトにおいて、レストランやショッピングなどの横浜特集ページを公開し、誘客を図っている。



### 3 実現に向けた方策の検討

#### (1) 事業手法

- 集客力の高い施設を導入し、賑わいの場を維持運営していくためには、適宜、市場のニーズを敏感かつ的確に対応する必要がある。
- 山下ふ頭の立地条件を生かし、持続的な賑わい拠点を形成していくには、公共主体の開発ではなく、民間のノウハウ・資源・資金等を十分に活用していくことが必要である。
- そこで、事業実施に向けては、民間開発の実現できる範囲を見極めながら、公民連携の事業を基本として、関係計画※との整合を踏まえ、検討していくことが必要である。

#### 公共と民間の役割分担の例

公共	民間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・倉庫等の移転調整</li> <li>・関係機関等との協議・調整</li> <li>・地区内外を連絡するインフラの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存施設の解体・撤去</li> <li>・新たな建物・地区内インフラの整備</li> <li>・管理・運営体制の構築</li> </ul>

※関係計画における新たな事業手法に関する記載

#### ■横浜市中期4か年計画（2014-2017）

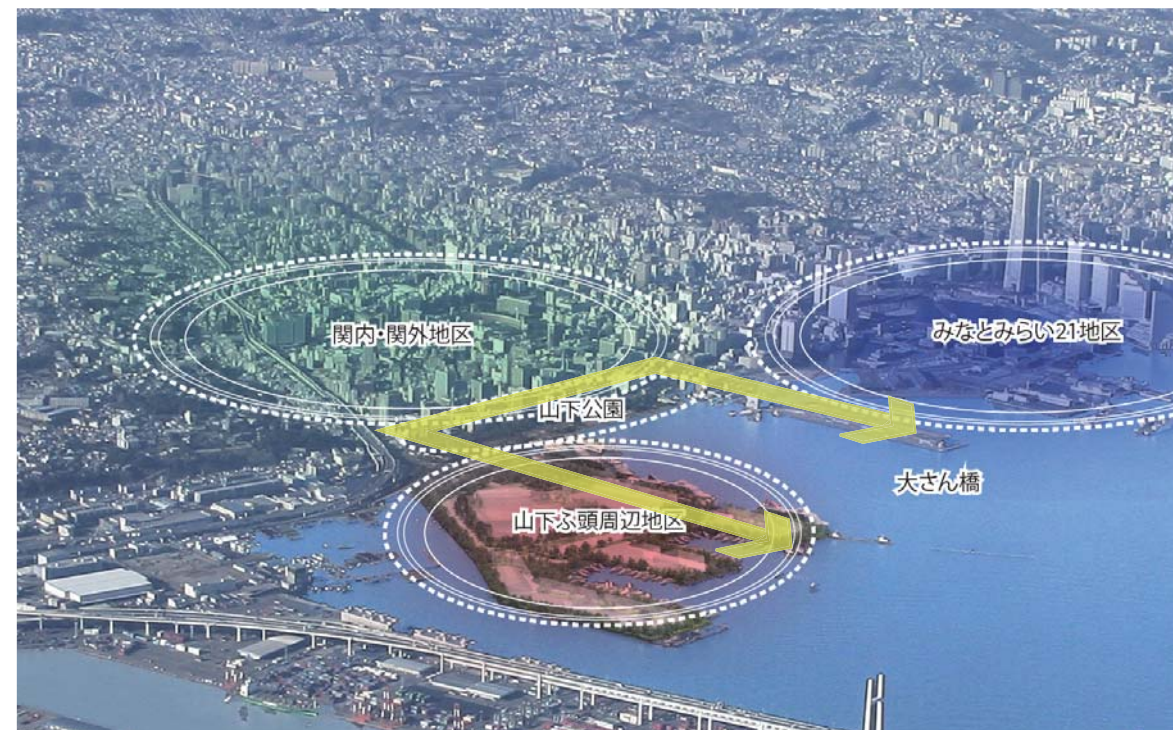
進化する国際的な観光・MICE都市として、統合型リゾート（IR）や官民パートナーシップの活用等を検討します。

#### ■横浜市都心臨海部再生マスタープラン（H27.2）

新たな施設整備にあたっては、施設周辺のまちづくりとの連携や環境整備に取り組み、横浜でしか得られない感動体験を演出するとともに、官民パートナーシップの活用やIR（統合型リゾート）の導入などについて検討します。

#### (2) 事業の進め方

- 47haという大規模な開発空間となることから、まちづくりの効果を早期に発現するために、まずは、地区の顔づくりが求められる。
- 山下公園前の水域を囲み、大さん橋～山下公園～山下ふ頭とつながる新たな賑わいの軸線を形成するために、まずは、山下公園側のまちづくりを先行することが重要である。その際、次の点は留意が必要である。



新たな賑わいの軸線のイメージ

#### ○一体感のある開発

段階的な整備となった場合においても、開発基本計画は地区全体を対象としており、開発基本計画で定める街づくりのコンセプトのもと、一体感のある開発を進める必要がある。

#### ○動線の確保

工事中や一部供用後において、物流機能と共存する必要があるため、現在の物流動線と新たな街の動線をできるだけ分離できるよう、工夫していく必要がある。

※参考：横浜市中期4か年計画（2014-2017）

山下ふ頭が持つ優れた立地特性をいかし、大規模で魅力的な集客施設の導入などを含め、都心臨海部の新たな賑わい拠点の形成に向けて再開発を推進することとしており、2020年の一部供用を目指すとしています。

#### (3) 推進体制について

- 開発基本計画のまちづくりの方針に沿って、地区全体の一体的な空間づくりができるよう、開発をコントロールしていく体制づくりにも、早い段階から取り組むことが望まれる。
- その際には、地区全体の価値・魅力の向上につながるような、エリアマネジメント（地区全体での一体的な施設管理・運営管理・安全管理）を行うことを視野に入れる。

## 出典一覧

出典 1	観光庁 宿泊旅行統計調査（平成 25 年 1 月～12 月）より作成 うち、観光目的率は、観光庁 訪日外国人の消費動向（平成 25 年年次報告書）より作成
出典 2	観光庁 宿泊旅行統計調査（平成 25 年 1 月～12 月）より作成
出典 3	観光庁訪日外国人の消費動向（平成 25 年年次報告書）より作成した国別の観光目的率を用いて試算
出典 4	国連世界観光機関統計
出典 5	横浜市観光動態・消費動向調査（平成 24 年度、25 年度）
出典 6	Flickr
出典 7	横浜市都市整備局資料
出典 8	横浜市文化観光局記者発表資料（H25. 7. 10）
出典 9	横浜市文化観光局記者発表資料（H26. 10. 6）

(案)

資料 4

開発基本計画素案に関する市民意見募集

山下ふ頭再開発

# ハーバーリゾートの形成

～皆様のご意見をお寄せ下さい～

期間 平成 27 年 4 月○日 (△) ～5 月○日 (△)



山下ふ頭は、横浜ベイブリッジの内側、いわゆる内港地区に位置し、横浜中華街、山下公園などの横浜を代表する観光スポットである関内地区に隣接しています。

面積約 47ha という広大な開発空間や静穏な水域に囲まれた優れた立地特性を生かし、横浜の成長エンジンとなる都心臨海部における新たな賑わい拠点の形成に向けて再開発を推進していきます。

横浜市港湾局

# 再開発の概要（背景と関連計画）

## 【都心臨海部の現状・課題】

- 開港以来、横浜の中心地として発展。
- 社会経済状況の変化に対応した、横浜の持続的な成長発展を図るためには、都心臨海部の機能強化が不可欠である。



【みなとみらいと大型客船】



【水上交通（シーバス）】

## 【横浜港の現状・課題】

- コンテナ化を背景に物流拠点は沖合に展開。
- コンテナの大型化や貨物量増加への対応が課題であり、先進的な施設整備などを進めている。



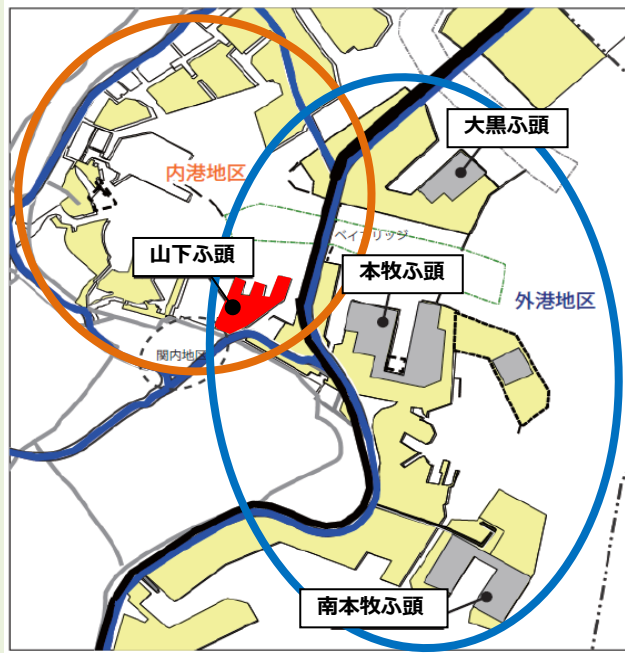
【本牧ふ頭全景】



【コンテナターミナル】

## 【山下ふ頭】

- 昭和 38 年に完成した面積約 47ha の一般貨物対応のふ頭で、港湾の物流拠点と都心臨海部が重なり合う場所に位置



## 山下ふ頭の土地利用の見直し

※山下ふ頭の物流機能は、再開発を契機に、沖合に移転し、機能更新を図る。

## ■横浜港港湾計画（H26年12月改訂）

10年～15年程度の将来の横浜港の姿を定めたもの

### 「市民が憩い集う港」山下ふ頭の再開発

物流主体の土地利用を見直し、市街地との近接性など優れた立地特性を生かした新たな賑わい拠点づくりを進める。

## ■横浜市都心臨海部再生マスタープラン（H27年2月策定）

都心臨海部 5 地区を対象に、目標年次 2050 年（第一段階 2025 年）における目指すべき将来像を描いたもの

「みなと交流軸」の形成や「地区の結節点」における連携強化により、都心臨海部 5 地区の一体的なまちづくりを推進する。

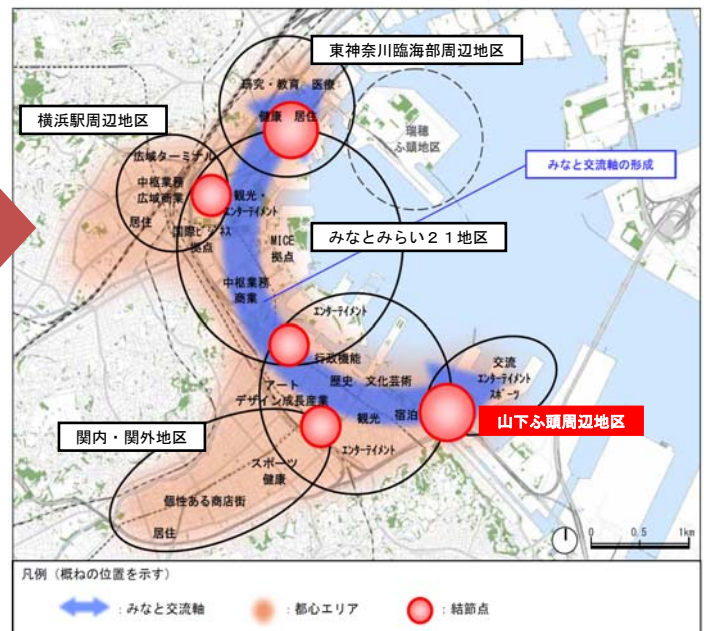
## ■横浜市中期4か年計画(2014～2017)

2025 年を目標とする骨太なまちづくりの戦略と 4 か年の取組を示したもの

### 山下ふ頭の再開発の推進

山下ふ頭が持つ優れた立地特性をいかし、大規模で魅力的な集客施設の導入などを含め、都心臨海部における新たな賑わい拠点の形成に向けて再開発を推進します。

<都心臨海部の機能配置とみなと交流軸・結節点の配置イメージ>



凡例（概ねの位置を示す）

- ← みなと交流軸
- 都心エリア
- 結節点







## 今後のスケジュール



### ●お問い合わせ●

〒231-0023 横浜市中区山下町2 (産業貿易センタービル5階)  
横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課

電話 045-671-7315 ファクシミリ 045-671-7158

電子メール kw-yamashitapier@city.yokohama.jp

ホームページ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kowan/basicinfo/yamashita/saikaihatsu/>

平成27年4月発行